

# Network & Footwork

有限会社メディアハウスエイアンドエス Vol.35



## 今年もよろしくお願いたします

先日、一週間ほど九州へ出張した。必要な荷物も多く、同じホテルに泊まるので、一部は宅配便で送ることにした。通常の宅配便は翌日以降の配達だが、追加料金を払えば航空便で夕方までに出して翌日の午前10時まで届くので、今回もそうした。

仕事関係のものは持参するため、送るのは仕事以外のもので空き時間に読む本や手袋、帽子、替えの肌着などだ。ただし段ボールに詰め込んでいると、どうせ送るならパジャマや仕事が終わったあとに着られるシャツや綿パンも送ってしまおうと、つついふだんの出張では持っていかないものまで詰め込む。段ボールぎりぎりまで入れ、封をして、お昼過ぎに宅配業者に取りに来てもらい、ひと安心。

ところが夕方5時を過ぎた頃、業者から予期せぬ電話がかかってきた。羽田のセンターからだったが、荷物の中にスプレーが入っているので、このままでは航空機で送れないと言う。困ったと思っていると電話の相手は荷物をあけてスプレーを廃棄してもいいか、それなら予定どおりに送ることができると言う。段ボールの中身までチェックしていることに驚きつつ、他のものはきちんと送ってくれますねと聞くと、もちろんですと返事が返ってくる。送り主が女性だったら荷物をあけられるのは抵抗あるだろうなと思いながら、そうしてくれと伝えた。

二時間ほどした7時ごろ、念のため宅配業者のホームページで様子を確認してみた。羽田のセンターで「調査中」となっている。何かまたひっかかっているといけないと思い、業者の問い合わせ窓口で電話して聞いてみる。担当者は荷物を受け付けたセンター、今回の場合は東京都港区のセンターが調べて返事をすると言う。

二時間近く待つが連絡は来ない。問い合わせ窓口の受付が終わってしまうので、もう一度電話する。担当者から港区のセンターから、いまの状況を電話させるとの答を聞き、待つこと数十分間。港区のセンターから電話があり、膨大な荷物があるので確認に時間がかかっている、わかったら何時になっても連絡すると言う。

夜10時近くになってふたたび電話がかかってきた。搭載できなかった荷物のリストには見あたらないので予定どおり翌日朝の便で運ぶとの連絡。

翌日。羽田に向かい10時過ぎの便に乗り、九州の空港に着く。宅配業者のホームページを見ると、荷物はたしかに10時前にホテルに届いていた。部屋に入って荷物を確認すると、きちんと丁寧に扱われていた。

話はまだ終わらない。廃棄してよいと伝えたスプレーは、後日、送り返されてきた。封筒の中はスプレー以外にも使い捨てカイロも入っていた。調べてみるとスプレーは高圧ガスに該当し、カイロは発火物ということだ。ただしカイロは製造メーカーなどによっては送ることができるが、今回はドラッグストアのオリジナル商品だったためか送ることはできなかった。

九州に翌日届くサービスの航空便、そのために荷物の内容を検査し、許可を得た上で手を入れる確認作業。「便利さ」と「安全」と「プライバシー」。いずれを優先させ、いずれを妥協するのか。こうした問いを突きつけられることが、今後、増えるであろうと感じた体験だった。

**飯田英明**

2019 HAPPY NEW YEAR

## ■高橋の取材ノートから

### ◎昨年仕事を振り返る

平成の最後となった昨年（平成30年）は2社の社史づくりのお手伝いをした。

ひとつは創業70年を迎えた建築・土木業の会社である。この会社が事業を展開している地域は1960年代前半まで農村地帯であった。けれども、60年代半ばから都市化の大波が押し寄せて来た。それは、ちょうど日本経済が高度成長に向かう時代とも重なっていた。

地域では、原野を切り拓く高速道路建設が着工し、新たな鉄道敷設が計画され、建設が始まった。これらの動きに呼応するように、農地の宅地化が進み新たな人口の流入と人口の増加が続いた。同時に水道や電気、電話などインフラの整備が進められた。

こうしたドラスティックな環境変化に対応して、小中学校の校舎の建設がはじまり、続いて住宅や高校や大学の設置、企業の工場・倉庫、商業施設、介護施設等の建設などが進められていった。

同社では特に二代目がこのチャン

スを的確にとらえ、土木と建築の二つの事業部門の先頭に立って、会社を成長させていった。やがて、2010年現在の三代目経営者へ事業継承を行った。

もうひとつは創業40周年を迎えた医療関係の会社である。1978年医薬品販売からスタートし、県内に次々に薬局・ドラッグストアを開店した。やがて調剤薬局だけでなく、メディカルタウンやドライブスルーなど先進的業態の開発し、幅広い事業を展開していった。

さらに、2008年二代目経営者へ事業継承をして、2010年以降は地域に密着した介護事業を開始して軌道に乗せ、総合的な介護事業を展開している。

この2社は、地域や業種・業態は異なるが、地域で進む変化を俊敏にとらえ、地域社会に根を張って貢献する理念と、築き上げたたしかな信用でこれからも力強く進む姿に、共通性を見ることが出来る。



### ◎後継者へのエール

これまで10数年間、社史づくりのお手伝いをして来た。この仕事を通して私は、創業者や経営者たちが生き抜いてこられた戦前・戦後・高度成長期やがて平成という長い歴史を背景として、ある方の場合では90年近い生き生きしたHistoryや、地域の大きな変貌の様子を、直接リアルに聞くという得がたい体験をさせてい

ただいた。

彼らは事業展開の中で、幾度か試練に遭遇するが、周囲のよき協力者の支援を得て、粘り強く試練を越えて来られた。

ところで数年前から、親しくお話をうかがった彼らの中から、お亡くなりになる方が出てくるようになった。昨年もまた悲しいお知らせが届いた。この方は私より数歳若い団塊世代で会長職として活動されていて、数か月前にお会いした時もお元気だったので、訃報を受けた時はすぐには信じられず、落胆した。

しかし、いまはお元気であった頃の様子を偲びながら、静かにここからの冥福をお祈りしている。

旅立った彼らは、あちらの世界から、変化の激しい現在と未来を生き抜く後継者たちや残された私たちに、きっとエールを送り続けてくださっているだろう。

### ◎進行中の社史・創業者伝

#### ①製造業110年史

完成予定 2019年2月

#### ②物流業50年—創業者伝

完成予定 2019年3月

#### ③建設業70年史

完成予定 2020年8月

高橋明紀代

(日本ペンクラブ会員)

有限会社メディアハウスエイアンドエス  
〒108-0071

東京都港区白金台3丁目16番10-709号

PHONE (03) 3449-0785

FAX (03) 3449-0736

m-hmail@nifty.com

http://www.m-h.co.jp/

◎ヨーグル、ふみ子 井上,tada-Fotolia

